

# 第1学年 音楽科 学習指導案

学校名 東大阪市立 盾津中学校  
授業者 吉川 菜月

1. 日時 令和7年12月10日(水) 第5限 13:20~14:10

2. 場所 第1音楽室

3. 学年・組 1年6組 38名

4. 単元名 「魔王」 (使用図書: 芸術音楽社「中学校の音楽1」)

## 5. 単元の目標

- 楽曲を構成する要素の中から「音色」・「旋律」・「テクスチャ」・「強弱」について知覚しながら聴くことができる。また、各要素と詩の内容を関連付けて聴くことができる。[知識及び技能]
- 聞き取った曲想と音楽の要素や詩を関連付けながら、感じ取った内容について根拠を示しながら説明することができる。[思考力、判断力、表現力等]
- 楽曲を主体的に鑑賞し、自ら進んで関わり表現しようとしている。また、音楽の要素や詩の内容に共感し、豊かな感性を育てようとしている。[学びに向かう力、人間性等]

## 6. 教材観

本教材は詩と音楽の関わりについて多面的にとらえることができる楽曲である。そこで、本単元では鑑賞の手立てとして「音色」・「旋律」・「テクスチャ」・「強弱」を重点として聴き取り、感じた内容に根拠をもって説明することができるようになることをねらいとする。これまで、『主人は冷たい土の中に』の単元では「旋律」「リズム」「テンポ」について知覚しており、本教材では新たに「音色」「テクスチャ」について学習し、知覚しながら鑑賞することに取り組ませる。中でも「テクスチャ」については知覚が難しい要素であるため、用語について説明し、補足教材を用いて活用できる語彙として定着させたい。本教材では初めにゲーテがドイツ語で描いたリートを聞くことでドイツ語の持つ響きや音色はどのように感じたかを表現した後、詩の内容に対してより共感的に鑑賞するために和訳の歌曲を鑑賞する。和訳の中には「おとうさん」に助けを求めながら「子はすでに息絶えぬ」という節があり、生徒が日本語訳を読んだときに「子が死ぬ=怖い話」という一元的な受け止め方にとどまることが予想される。『魔王』や『子』『父』『語り手』がそれぞれに表現する音色やテクスチャを知覚しながら、詩の奥に広がる『大切なものの喪失』をとらえさせ、楽曲に共感しながら聴きとることで豊かな人間性を育むことができる題材であると考えられる。

本題材では、前時までにドイツ語で楽曲を鑑賞しており、はじめに詩から受ける印象をなるべく取り払って音楽に着目させたいというねらいがあったためである。[①ドイツ語での第一印象を端的にまとめたメモ][②伴奏のリズム、テクスチャを解説したうえで鑑賞したメモ]という2ステップを踏んだうえで、和訳の歌曲を鑑賞するという学習活動を行う。歌詞の内容を理解し、伴奏、『魔王』『子』『父』『語り手』の情景描写について分析したことを文章で表現する。歌手の表現力にも触れながら、前時までのステップで集めた印象をふまえて豊かな文章表現につなげる。

## 7. 指導観

生徒はこれまで、小学校で身近な音楽を鑑賞し、感じたことや気づいたことに興味を示しながら表現する力を育んできた。しかしながら、これまでの学習では鑑賞した音楽について生徒自身が日常生活や他の教科で獲得した語彙を用いて表現する必要があり、少ない語彙の中から鑑賞文として適した表現を探する必要があった。そのため文章表現に難しさを感じて鑑賞に対して苦手意識をもつ生徒も多く見受けられた。そこで、5月に鑑賞したヴィヴァルディの「春」では「楽曲の形式・構成する要素・作曲された背景について知覚する→聞き取った音楽と関連づけながら内容を評価する→根拠を示した上で適切な語彙を用いて説明する」というプロセスをもとに取り組んだ。ルーブリックのB評価に満たない生徒への支援としては感想文と鑑賞文の違いを説明(聞き取った内容について根拠をもって表現した文章を複数例示)し、また、『語彙カード』をもとに適切な語彙を用いることも進めてきた。単元の振り返りでは生徒の記述内容に「思ったより書けた」「自分が表現すべき内容が分かった」などの記述もあり、文章表現に対する自信につながったと考えられる。

本単元は、これまで鑑賞してきた楽曲とは異なり、『怖そう』『恐ろしそう』といった印象をもつ教材である。漠然とした『怖そう』という印象に対して、音楽的な見方・考え方を通すことで楽曲がどのように印象づけられているかを分析して可視化し、音楽のもつ良さを俯瞰的にとらえることができるようにしたい。その中で、「音色」・「旋律」・「テクスチャ」・「強弱」に着目させ、楽曲のなかで表現されている緊迫感や恐怖心に根拠があることに気付

かせるような授業展開を行う。文章表現が苦手な生徒に対しては、その手立てとして『語彙カード』の活用を促し、意欲的に表現活動に参加できるようにしたい。授業者はこれまで本単元を扱う中で、生徒から「どうして子どもが死んだのか」「お父さんはどうして助けてあげなかったのか」という疑問を多く受け止めてきた。これは鑑賞者の感情が楽曲を通して揺れ、「どうして弱い者が犠牲にならなければいけないのか」という憤りにつながっていることが考えられる。これにより、「子どもが死んだ」という内容をもとに『大切なものの喪失』へと深め、楽曲に共感しながら鑑賞できるような授業展開をめざしたい。その一つとして、感じたことをグループ内で共有することで友達の意見と違いを知る時間を作る。特に『恐怖』などの抽象的な概念については一人ずつ感じ方に違いがあり、そのどれもが尊重できる感情であることを押さえたうえで共有することでより共感的に鑑賞する態度の育成につながることを予想される。

指導にあたって、本校の研究テーマである「子どもが分かったと思える授業づくり」において、鑑賞分野での「わかった」とは「感じたことを言葉にできた」という経験にあると位置づけた。感じた気持ちに言葉や名前をあてはめる楽しさを知ることと言語活動が充実し、言語活動の充実が音楽表現の充実にもつながると考える。「言葉にできたから伝わった」という経験が「言葉にできない表現（音楽表現）も伝えたい」につながるよう工夫して指導にあたりたい。

## 8. 単元と特につながりのある“中学校区におけるつきたい力”

つきたい力	自分を受け入れ行動する力	他者を理解しつながらの力	なかまと課題を見つける力
学習活動	楽曲のもつ良さについて考え、自らの感情と合わせて理解しようとする。	楽曲の持つ良さを理解し、人物の感情に共感しながら文章に表現する。	

## 9. 単元の評価規準

- 詩の内容を理解して、音楽との関連に着目している。「音色」・「旋律」・「テクスチュア」・「強弱」のそれぞれの要素について理解している。[知識・技能]
- 楽曲を鑑賞して、詩の内容に共感しながら文章に表現している。「音色」・「旋律」・「テクスチュア」・「強弱」を理解し、要素に着目して感じたことを文章に活用している。[思考・判断・表現]
- 楽曲について、自らが感じ取った内容をまとめ、ふりかえるなど主体的に鑑賞しようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]

## 10. 単元の指導と評価の計画（全4時間）

時	学習内容	主な評価規準 [観点]
第1時	ドイツ歌曲「魔王」を聞き、印象を書く。	初めて聞く音楽について気づいたことをもとに、感じたことを説明している。[主体的に学習に取り組む態度]
第2時	楽曲を構成する要素について知る。	「音色」・「旋律」・「テクスチュア」・「強弱」について理解し、それぞれの要素を使って聞いている。[知識・技能]
第3時 本時	日本語訳「魔王」を聴き、印象を書く。	前時までの情報を踏まえて詩と音楽を関連付けて聴き、感じたことを説明している。[思考・判断・表現]
第4時	作曲者や演奏者の工夫を考える。	変化する曲想に合わせた表現を考えている。[思考・判断・表現]

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ◎ 音楽の要素をもとに、詩の内容と音楽を関連付けて鑑賞することができる。

### (2) 本時の評価規準

- ◎ 知覚した音楽の要素を活用し、詩の内容と音楽を関連づけて感じたことを説明している。[思考・判断・表現]

## 評価基準

評価A（十分満足できる）	評価B（満足できる）	評価Bに達していない子どもへの支援
詩の内容や人物の感情について「音色」・「旋律」・「テクスチュア」・「強弱」の各要素を用いて感じたことを説明し、共感している。	詩の内容について「音色」・「旋律」・「テクスチュア」・「強弱」の各要素を用いて感じたことを説明している。	各要素について活用できる言葉について、語彙カードを提示する。記入例を参考にしながら自分が感じたことを言葉にするよう促す。

子どもに示す評価基準

A+	A	B
詩の内容や人物の感情について、「音色」・「旋律」・「テクスチャ」・「強弱」の4つの要素を用いて感じたことを説明することができる。	詩の内容について触れ、「音色」・「旋律」・「テクスチャ」・「強弱」の中から2つ以上の要素を用いて感じたことを説明することができる。	「魔王」について感じた印象を書いている。

(3) 本時の学習過程

個：1人で P：ペアで G：グループで C：クラスで

時間	○学習内容・学習活動	形態	予想される子どもの反応	●指導上の留意点 ◎評価規準（評価方法）
15分 導入	○ 合唱「君をのせて」を練習する。	C	・ 各パートを聞きながら歌う。	● 自分のパートとほかのパートのかかわりを感じながら歌う。
	○ 「音色」・「旋律」・「テクスチャ」・「強弱」の意味を確認する。	C	・ 旋律はメロディのこと。 ・ テクスチャは音の重なりのこと。 ・ 大小じゃなくて強弱で表す。 ・ 音色は明るい暗いか。 ・ 音色は楽器の音もある。など	● 前時のプリントを提示し、確認する。 ● 日本語の詩を聞きながら確認したテクスチャを用いて鑑賞する活動につなげる。
めあて 詩の内容と音楽のつながりを説明しよう！				
25分 展開	○ 日本語訳「魔王」を鑑賞する。	個	・ むずかしい言葉がある。 ・ 魔王がでてきた。 ・ 息絶えぬって死んだってこと？など	● 日本語の歌詞とともに、難しい言葉の意味も併せて提示する。 ● 静かな環境で鑑賞できるように留意させる。
	○ 詩の内容を確認しながら、音楽を聴いて「音色」・「旋律」・「テクスチャ」・「強弱」の観点から感じたことを説明する。	個	・ 子が怖がるたびにだんだん音が強くなっている。 ・ 魔王の声が急激に変わった。 ・ 旋律もだんだん高くなっている。など	● 鑑賞の語彙カードを手立てにして良いことを伝える。 ● 楽曲を再度流し、観点ごとに着目して鑑賞させる。 ◎ 知覚した音楽の要素を活用し、詩の内容と音楽を関連づけて感じたことを説明している。〈思考・判断・表現〉（ワークシートの記述）
	○ 説明したことを学習グループごとに共有し、発表する。	G	・ 最後の音が急に下がっているのは何をあらわしているのだろう。など	● クラスの生徒の意見を参考にしながら自分の言葉で説明するように促す。
10分 まとめ	○ 本時のまとめ・ふりかえりを記入する。	C		● 自分の言葉で説明できたか確認しながら、ふりかえるよう促す。

**活用してほしい知識・技能・キーワード**  
 ・ 旋律の高さ・強弱の違い  
 ・ 伴奏と歌のテクスチャの変化